2021.10.15 発行

自然（しぜん）せいたいえんだより No.78

秋冬合併号

自然生態園は、むかしながらの池や田んぼをのこし、植物や生きものの観察(かんさつ),お米づくり,自然体験(しぜんたいけん)などができる公園です。

★スズメバチについて・・・興味のある方はホームページ「そよ風通信」のバックナンバー「せいたいえんだより No.69」をごらんください。

イラスト：みつこ

秋の風景

【モズ】ヒヨドリより小さいですが「小さな猛禽類(もうきんるい)」と呼ばれ、時にはスズメのような小鳥も狩ります。

【アキアカネ】アカトンボの一種。夏は山で過ごしますが、秋には里山に移動します。

【エンマコオロギ・コバネイナゴ・オオカマキリ】

どれも春から見られる昆虫ですが、秋には翅(はね)が生えた成虫となり、繁殖期(はんしょくき)を迎えます。

【タイアザミ】秋に鮮やかな花が咲きますが、葉は鋭(するど)いトゲだらけで触ると痛いです。

【ユウガギク】秋に生態園の田んぼの周りで咲く白いキクの花です。

【樹の実】秋には赤いガクと青い実が目立つクサギや、真っ赤な小粒の実が鈴なりに実るガマズミ等、多くの樹々が実をつけ、鳥たちが種ごとに好むものを食べます。

横浜市指定管理者　ＮＰＯ法人 茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会
★所在地;横浜市都筑区茅ケ崎南1−4　★TEL;045−945−0816（水〜日曜日の 9〜16 時）
★Ｅメール;seitaien@ybb.ne.jp　☆ホームページ; https://www.seitaien.com/

冬の風景

【キンクロハジロ（雄）＊】黒い体と金色の目、白い翼(つばさ)が特徴。潜水(せんすい)し貝等を食べます。

【マガモ（雄）＊】オスは顔が緑色で「アオクビ」と呼ばれます。

【アオジ（雌雄）】お腹が黄色く背中がまだら模様。春夏は山で過ごし、秋に低地に移動。

【シジュウカラ】白いほっぺと黒のネクタイが特徴。1 年じゅうみることができます。

【エナガ】短いクチバシと長い尾が特徴。真夏以外は見られます。

【ヤマガラ】胸やお腹のオレンジ色が目立ちます。生態園では秋・冬にシジュウカラとエナガの群れに混ざっているのを見かけることがあります。

【ヨシノボリ】池や川にいるハゼの仲間。水底や杭にくっついています。

【ドブガイ】池や川にいる二枚貝で 20 ㎝ほどの大きさになります。

【モクズガニ】ハサミの藻のような毛が特徴。成熟(せいじゅく)すると川を降りて河口で産卵(さんらん)し、海で育った子ガニが 川伝いに遡上(そじょう)します。

＊春夏の繁殖期はロシア等で過ごし、秋冬に日本に渡ってくる冬鳥。